

2022年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

岩上ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>「証券投資の学びを通して、経済を見る力・感じる力を磨こう！」</p> <p>株式や債券といった証券への投資論を学びます。株式相場は、国の経済活動の強弱を反映します。個別企業の株価は、事業活動のよし悪しを反映します。債券は、経済活動の体温ともいえる金利を表します。株式や債券について学ぶことは、企業や国の経済活動そのものを学ぶことに他なりません。</p> <p>卒業後に皆さんがどんな職業に就こうとも、経済への理解は必須です。投資の学びを通して、経済を見る力、経済活動の息吹を感じる力を養います。</p> <p>一攫千金を夢見るゼミではありませんので、勘違いしないように！</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>演習Ⅰでは、証券分析の基礎を学びます。株式、債券、投資信託といった代表的な投資商品や企業分析について学びながら、リスクを抑えつつ安定的な収益を獲得する投資手法について考えます。</p> <p>演習Ⅱでは、パート活動が中心となります。希望により①地域金融経済パート、②日経STOCKリーグパートに分かれ、3～5人のグループでテーマを決めて研究します。ゼミでは、パートごとに研究の進捗状況を報告し、全員で議論をしながら研究を深めていきます。（*日本経済新聞社が主催するチーム対抗の金融経済・投資学習コンテスト■「日経STOCKリーグ」で検索）</p> <p>卒業研究は、演習Ⅰ・Ⅱの成果を踏まえ、各自設定したテーマについて研究を進めます。Ⅱの研究テーマの延長でも、新たに興味をもったテーマでも構いません。日経STOCKリーグに参加したグループは、コンテストに提出するレポートをチームで作成します。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>企業の人事部にいた経験をもとに、就職活動全般について相談に乗り、希望に応じて指導します。進学希望者についても、希望に応じてサポートをします。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>テーマは、経済・金融にかかわる内容であれば、自由に選択して構いません。</p> <p>分量は、A4(40字×40行)で7ページ以上(図表は除く)を目安とします。日経STOCKリーグに参加するチームは、コンテストに提出するレポートをもって卒業論文とみなします。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>以下に該当する学生の応募を期待します。</p> <p>①金融や投資に関心を持ち、主体的に学びたいという意欲をもつ人。</p> <p>②3～5人程度の小グループでの研究に、積極的に取り組むことができる人。</p> <p>③大学生としての基本的なマナーを守れる人。</p>
<p>その他</p>	<p>前期に「金融論」の講義を履修している必要はありません。履修していないことがゼミでの学習・研究、成績評価に不利になることはありません。</p> <p>岩上ゼミを希望する学生は、応募する前に研究室(3号館4F-411)まで来てください。各人の希望を聞きたいので、できるだけ一人で来てもらうのが良いです。あらかじめメールで予約して貰うほうが確実です。</p> <p>担当教員メール: iwakami@k-kentan.ac.jp</p> <p>ゼミ活動内容や担当教員プロフィールは研究室HP(https://www.iwakami-lab.com)を参照してください。</p>

岡田ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>日本全体の人口減少と大都市圏への人口移動が加速し、地方圏の多くは存続の危機に直面しております。これからは、そこに住む人々自身が地域のあるべき姿を意識しながら、仕事をするのが重要であると考えます。このゼミでは「地域づくり」、「地域活性化」を基本テーマとし、先進地の事例や理論を参考にしながらも、各自の独創的な発想によって、より良い方策を考えます。</p> <p>地域活動による実践的な学びを行っていますので、現実の社会で自分が考えたアイデアを実現できます。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>演習Ⅰ・演習Ⅱ・卒業研究: 基本テーマに沿った内容で文献発表や卒業論文の作成を進めます。また、ゼミ生全員で栄門町(県短周辺)を事例に、「地域づくり」、「地域活性化」について考えて取り組みます。地域活動の内容を基にして卒業論文を作成することもできます。</p> <p>地域活動: 鹿児島県農業法人協会主催のファーマーズマーケット、美山の朝マルシェ、栄門町のフリーベーパー作成、鹿児島市の若者まちづくり会議等に携わってきました。現在、「栄門つながるこのまち実行委員会」と協力し、「eimon park bazaar(えいもん ばーく ばざーる)」を運営しています。詳しくは、「https://www.eimonparkbazaar.com」または「栄門バザー」で検索。</p> <p>一過性のボランティアではなく、地域住民と一緒に運営者として活動しますので、主体的な経験として就職活動等の面接でも熱意をもって語れるようになります。</p> <p>※新型コロナウイルスの感染状況に応じて、遠隔会議などの対策をとって進めています。</p> <p>地域活動についてはゼミ時間内だけでなく、ゼミ時間外にも実施しています。ゼミ時間外の地域活動に関しては、希望者が地域もりあげ隊(県短サークル)として主体的に行っていますので、積極的に参加したい人を募集します。(ゼミ時間外の地域活動への参加は自由です。成績に関係しません。)</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>どのような職種を希望する場合でも、可能な範囲で相談にのります。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>基本テーマに沿っていれば何でも構いません。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>ルールを守ること。</p> <p>協調性をもつこと。</p> <p>前向きに取り組むこと。</p> <p>基本テーマに特化したゼミを行うので、このことに関心のある学生を望みます。</p>
<p>その他</p>	<p>質問があれば、いつでも研究室(3号館2階)に来てください。岡田ゼミを希望する場合にも、なるべく事前に相談に来てください。不在のこともあるので、メール(okada@k-kentan.ac.jp)をもらえれば確実です。</p> <p>※希望者が募集人数を超えた場合には、志望理由書の内容に問題がない限り、基本的には事前に質問・相談に来た人を優先します。</p>

岡村(俊)ゼミ

基本テーマ	<p>ゼミのテーマは“情報化を中心としたシステムと人間の関わり合い”です。コンピュータやネットワークを中心としたモノ、社会、システムが人間とどのように関わっているのか明らかにし、快適かつ効率的な(職業)生活をしていこうということです。簡単に言うと、ICT(情報通信技術)を活用することで、ラクして、いい仕事しようとなります。</p> <p>ヒット商品や心理学に関して学ぶこともありますが、あくまでも(働くことを含めた)人間の生活からの視点で考えていきます。</p> <p>岡村(俊)はICTの専門家でもあります。コンピュータをバリバリやりたいならこのゼミは1つの選択肢となります。一方、「コンピュータは苦手、でもうまくなりたい」という学生が選択してもかまいません。どうして苦手なのか、コンピュータのどこが悪いのかを知ることができ、苦手意識を克服することができるかもしれません。ICTに興味がない人はこのゼミには向いていません。</p>
ゼミ運営方法	<p>基本的に“演習1”と“演習2”は“卒業研究”に向けての準備だと考えます。卒業研究は“勉強”ではなく“研究”なので、世の中に役に立つ新しい事実を自ら発見することが望まれます。また、学習と実益を兼ねて、学内あちこちのICT環境改善(パソコンや周辺機器の設定とか)など実践的な活動をやることもあります。</p> <p>ゼミの運営は基本的に学生主体が望ましいところです。学生の運営を教員がサポートする、というのが理想です。新型コロナの状況下では難しいかもしれませんが、工場見学など授業時間外での活動も、できる限り学生の希望に対応していきたいと考えてます。</p>
就職指導の方針	<p>就職先、進路、書類の書き方など学生の希望に応じて、できる限りのアドバイスはします。こちらからなにか強制することはありませんが、たまに活動状況に関して確認することはあります。指導や助言はしますが、進路選択・就職活動はあくまでも学生自らの責任において行うものと考えています。</p>
卒論の要件	<p>ゼミのテーマから大きく外れなければ、内容、字数ともに自由です。動画などのデジタルデータでもかまいません。各自のテーマは演習を進める中で自分で決めていくこととなります。内容によっては複数名での執筆も可とします。内容に応じて、実地調査やアンケート調査、実験なども含めることもあります。</p>
学生への要望	<p>自分の考えを持つと同時に、その考えを表現する(相手に伝える)ことを望みます。基本的にゼミ生を自立した“おとな”として扱います。“おとな”になれない、“おとな”になろうとしない学生は、最低限の学習しかできないと思ってください。</p>
その他	<p>何か質問があれば、okamura@biz-kpc.netにメールをするか、研究室(2号館1階)を訪ねてください。</p>

岡村(雄)ゼミ

基本テーマ	<p>複式簿記会計の基本原則を学ぶ</p> <p>会計は「事業の言語」といわれています。企業は財務諸表(決算書)という書面の公表によって、自社の概況について説明します。他方、財務諸表をみた関係者は、その企業とのつきあい方を考え、行動します。こうしたコミュニケーション現象から会計は言語といわれるようになりました。付言すれば、ある状況における問題の発見、認識、そして解決方法を議論する際に、会計は必要不可欠な知識であり、その形式的な構造を支えるのが複式簿記ということになります。</p> <p>本演習はテキスト輪読や問題演習に加えて、ボードゲーム、模擬店経営、企業調査等も取り入れながら、複式簿記会計の理論的かつ実践的な習得を目指します。</p>
ゼミ運営方法	<p>学生が主体となって運営し、教員はアドバイザーになることが望ましいと思っています。本ゼミの大まかな計画は次の通りです。</p> <p>演習Ⅰ：複式簿記の問題演習、基本テキストの輪読 演習Ⅱ：基本テキストの輪読、卒業研究の準備 卒業研究：毎週、研究の進捗を報告しながら、論文にまとめる</p> <p>過去に実施した課外活動 ※今年度は新型コロナウイルスの感染状況次第で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日商簿記検定対策の学習会 ・学内開放における模擬店経営と複式簿記会計の実践 ・長期休暇を利用した合宿(垂水市、南九州市、本学) ・企業調査(東京都、京都府、福岡県、熊本県)
就職指導の方針	<p>履歴書、エントリーシートの添削、小論文の学習指導等できる範囲でサポートします。</p>
卒論の要件	<p>研究対象：基本テーマの範囲 字数制限：なし</p>
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、約束を守る、といったマナーやルールを大切にしてください ・財務会計論、会計情報論等の会計科目も履修してください
その他	<p>前期は国内留学中のため、研究室でお会いできません。本ゼミに関心ある方はメールでご連絡ください。Zoom等で説明会を実施します。</p>

2022年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

倉重ゼミ

基本テーマ	このゼミでの基本テーマは、「コンピュータを用いた意思決定」です。ここでのコンピュータを用いるとは、プログラミングを行ったり、エクセルをちょっと高度に利用してみたり、特殊なソフトを使うことです。さらにサブテーマとして、「観光」をあげています。
ゼミ運営方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習ⅠとⅡでは、エクセルを利用してのプログラミングやデータ解析、シミュレーションなどを学んでいきます。ゼミ生の習熟具合や希望に応じて、「エクセルを使った鹿児島すごろく」の作成や「観光地の評価」、機械学習(AIの一部)への取り組みも考えています。また、コンピュータを用いる課題以外にも人前で話すことや思考力を養う課題などがあります。 ・卒業研究では、基本的に自分が興味を持てるテーマで卒論を書いてもらいます。 ・課外活動は、学生さんからの要望があれば実施します(以下の勉強会は例外)。 <p>※今回は新たな試みとして、前期試験終了後に最大3日間の予定でプログラミングの勉強会を実施します。なお、この勉強会への参加は任意で成績評価には影響ありません。</p>
就職指導の方針	私に“できる範囲内”でのお手伝いはさせていただきます。特に間接的な就活支援になりますが、SPIの非言語処理問題やPC検定への質問・相談は歓迎します。また、面接練習用にビデオカメラなども準備しています。これらは希望する学生さんのみを対象にするもので、こちらから無理強いすることはありません。
卒論の要件	テーマなどは自由で、複数名で取り組むことも可能とします。分量に関しては、その内容によります。
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも現段階でプログラミングなどコンピュータを扱うことに関心があること(経験はまったく問いません)。 ・チームでの活動を基本とするので、最低限度の協調性は必要かと思えます。 ・後期開講予定の統計学は受講してください。
その他	このゼミは、以下のような人が向いている気がします。 <ul style="list-style-type: none"> ・将来、情報関連分野に就職を考えている人はもちろんですが、ワンランク上のエクセル使いを目指す人 ・数字を扱うパズルが好きの人(得意である必要はありません) ・フェルミ推定が楽しそうと思える人 (フェルミ推定については、ネットで調べてみてください。過去の課題例: 県短で1年間に消費されたトイレットペーパーのロール数、県短内で1年間に発生した消しカスの重量、県短内での1年間のタイピング数、県短の門を1年間に通過した人数などの推定)

瀬口ゼミ

基本テーマ	瀬口ゼミのテーマは、「企業と市場」、「企業間競争」、「企業と社会」などについて考察することです。具体的には、なぜ売れる商品と売れない商品があるのか、企業同士でどのような競争が展開されているのか、企業は社会に対してどのような影響を与えるのか、などについて考えていきます。詳細についてはゼミ生の要望を聞いてから決定しますが、マーケティング論、ブランド論、多国籍企業論、経営戦略論、企業の社会的責任論(CSR論)、文化産業論、消費社会論、のいずれかが中心になります。このような分野に興味がある学生さんにおすすめします。過去の卒業生の多くは、卒論のテーマとして、「ディズニー・リゾート」、「ユニクロ」、「無印良品」、「ルイ・ヴィトン」、「アニメ産業」、「健康食品産業」など、自分が興味を持っている具体的な企業や産業を取り上げました。その他にも、広告の効果やドラッカー学説の検討など、理論的な研究もありました。
ゼミ運営方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「演習1」では、ゼミ生の希望を聞きながら、以下の2つの方法から選択する予定です。 <ol style="list-style-type: none"> (1)ゼミで共通の本を決め、輪読を行う。 (2)各自で興味のある本を1冊選択し、そのなかの1~2章を担当する。 いずれの場合も、以下の手順で進めていきます。 <ol style="list-style-type: none"> ①文献を決定し、担当者を割り振る。 ②担当者は、自分の担当箇所をレジュメにまとめ、発表当日に他のゼミ生に配布する。 ③報告する際は、レジュメに基づきながら担当した箇所の内容を説明し、自分が考えた論点を提示する。 ④他のゼミ生は、報告者への質疑や提示された論点について意見を述べる。 ・「演習2」では、演習1での学習状況を見極めながら、応用文献の発表または卒業研究に向けたテーマ設定などを行う予定です。 ・「卒業研究」では、卒業論文の執筆がメインになります。各自のテーマに基づき、研究内容や進捗状況などを随時報告してもらいます。 <p>・新型コロナウイルスの状況次第ですが、学内開放(学祭)への参加、工場見学などのゼミ旅行、食事会等の活動を行いたいと考えていますので、このような活動に積極的に取り組みたい学生さんの応募を待っています。</p> <p>ただし、こちらから無理に計画することはありません。皆さんから自分たちの希望を私に伝えて欲しいと思います。なお、ゼミの時間以外の活動の参加は任意であり、参加の有無によって成績に差を付けることはありません。</p>
就職指導の方針	希望者に対して、企業研究、履歴書の書き方、面接対策などを出来る範囲でお手伝いします。ゼミ以外でも、希望があれば時間を取って、個別に相談に乗るつもりです。よく相談に来てくれる学生には、毎週のように指導することがあります。また、就職活動に必要なとされる能力(論理的に考える、自分の考えを持つ、自分の考えを相手に分かるように伝える、相手の話を聞く、質問の意図を読み取る、など)は、ゼミ活動のなかでも養成できると考えます。したがって、普段のゼミ活動においても、就職活動直前になって困らないように、前述した能力を身に付けられるよう指導していきます。
卒論の要件	卒論のテーマは、私が指導可能な分野であれば、何でも構いません。テーマ設定や書き方などについては、ゼミのなかで具体的に指導していきます。文字数は特に設けていません。心配しなくても、書くべきことを書いていけば、十分な文字数になります。
学生への要望	現時点での知識や能力などは一切問いません。同様に、専攻や私の授業の受講経験も関係ありません。また、一人ひとり忙しさを力を入れていることが異なるでしょうから、ゼミ中心の生活を望むことはしません。しかしながら、ゼミに参加し、ともに学ぶにあたって、以下の点を守ってほしいと思います。 <ul style="list-style-type: none"> ・特別な理由が無い限り、欠席をしないこと。欠席する際は必ず事前に連絡をし、無断欠席をしないこと。 ・ゼミのテーマや本について決める際に自分の希望が叶わなくても、決まった以上は一生懸命取り組むこと。 ・自分が担当すること(担当する章の報告など)には責任を持つこと。 ・自分が担当する章でなくても、きちんと文献を読み質問を考えてくること。 ・「黙っていても何かしてくれる」のではなく、「自分たちでゼミをつくっていく」気持ちを持つこと。
その他	ゼミについて質問があれば、seguchi@k-kentan.ac.jpまで遠慮なくメールしてください。私と直接話して相談したい場合も、上記のメールアドレスにメールを送ってください。お互いの時間を調整して相談に乗りたいと思います。

竹中ゼミ

基本テーマ	<p>テーマは、「経営学を学び、これからの働き方を考える」です。経営学のゼミですので、企業やその活動内容についての理解を深めていきます。同時に、私たちにとって大事な問題である、企業との「働き方」についても考えていきます。「良い企業とはどのような企業なのか」「望ましい働き方とはどのようなものか」などのテーマについて、テキストでの内容を手がかりにして、ゼミで議論を行います。</p> <p>テキストは「みんなの経営学」(佐々木圭吾著)を候補として考えています。ゼミのメンバーが決まれば、テーマやテキスト、進め方について改めて考える機会を設けるつもりです。</p>
ゼミ運営方法	<p>大きな流れとしては、以下のようになります。</p> <p>演習1: テキストを中心として、経営学や企業を考える知識を得る</p> <p>↓</p> <p>演習2: ①各自の卒論のテーマを設定し、執筆の準備をはじめ ②引き続きテキストの内容を取り上げる</p> <p>↓</p> <p>卒業研究: 卒業論文を仕上げる</p> <p>ゼミは、基本的には学生が中心になって活動していきます。ゼミ生同士で考えていく時間を多くしていくつもりです。</p> <p>ゼミでは、各自のテーマについて問題意識を持って考えていくことが大切です。自分の意見を述べると共に、他の学生からの質問や感想にも耳を傾けることで、様々な問題の理解が深まっていくようなゼミ運営ができることを望んでいます。</p> <p>なお、ゼミ合宿等の大学外での活動の予定はありません。</p>
就職指導の方針	<p>就職は皆さんにとっての大きなテーマです。できるだけサポートをしていきたいと考えています。これまでは、履歴書作成や志望動機、自己PRなどどのように書けばよいかについて、アドバイスしてきました。また、具体的な求人情報は学生課にありますので、そこの連携も行っていきます。</p>
卒論の要件	<p>卒論の字数については、目安としてA4用紙10枚程度(12000字～15000字程度)が必要です。テーマについては、必ずしもゼミで取り上げたテーマでなくても構いません。自分で関心があるテーマを見つけ、それについてじっくりまとめることができれば大丈夫です。1年生の演習1の終盤からそれぞれと意見交換しながらテーマや内容について考えていく予定です。</p>
学生への要望	<p>ゼミは少人数で運営されるので、一人一人の発言や学生自身の考え方・問題意識が大切です。そのためには、それぞれの人が何を考えているのか、言葉や文字にして他の人に伝えていくことが必要になります。また、伝える方法にまだ慣れていなければ、ゼミなどの機会を活用して練習していくことで、経験値が上がっていきます。</p> <p>このようなことを理解してくれる学生を望みます。</p>
その他	<p>ゼミについて何か質問がある場合は、takenaka@k-kentan.ac.jpまでメールで連絡するか、授業後や研究室などへ直接質問に来てくれれば対応します。</p>

近間ゼミ

基本テーマ	<p>テーマ: 「働くこと」を問い直す</p> <p>私たちが「働くこと」の目的はいったい何でしょうか。労働とはそもそも、自らの生活を支える賃金を得るための活動です。それに加えて、労働とは、自らが有する知識・技能や潜在的な能力を伸ばしたり、発揮したりすることによって、自己実現や社会的な役割を果たす活動です。</p> <p>一方で、今日の働き方には過労死や長時間労働、非正規労働者の不安定雇用や低賃金という問題があり、上記の目的の達成には困難が生じています。コロナ禍で「多様な」働き方への注目が集まるなか、望ましい働き方の模索が必要とされています。ゼミでは日本の働き方の特徴、ライフスタイル(結婚、子育て、介護など)との関係性について考えていきたいと思えます。</p>
ゼミ運営方法	<p>大まかには以下のような流れで進めていきたいと思えます。</p> <p>演習Ⅰ: ゼミのテーマに関わるテキストを1冊選択し、輪読を行います。</p> <p>演習Ⅱ: 卒論の執筆に向けて、各自が関心を持っているテーマに関係する論文を取り上げ、その内容を報告してもらいます。</p> <p>卒業研究: 卒論の目次案、概要を報告してもらい、実際に卒論を作成してもらいます。各々の進捗状況に合わせて、適宜アドバイスを行います。</p> <p>ゼミ運営の具体的な方法については、ゼミ生と相談しながら決めていきたいと思えます。あくまで学生が主体となってゼミが運営されることが望ましいので、参加しやすいやり方についても何かあれば提案してください。</p> <p>また、ゼミ生の希望があればゼミ旅行、ゼミ合宿などの課外活動を企画したいと思えます(ただし、新型コロナの状況次第)。なお、ゼミの時間以外の活動の参加は任意であり、参加の有無によって成績に差をつけることはありません。</p>
就職指導の方針	<p>希望者には、履歴書の作成や面接練習などを可能な範囲でサポートしていきたいと思えます。就職活動はゼミのテーマとも密接に関わることで、心配事なども遠慮せず相談してください。</p>
卒論の要件	<p>社会問題を扱うテーマであれば、ゼミで扱うテーマでなくても構いません。テーマについては、ゼミのなかで相談しながら決めていきたいと思えます。文字数は目安として10,000～12,000字程度とします。</p>
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーを守ってお互いが気持ちよくゼミに参加できるように心掛けていきましょう。 ・欠席する際は必ず事前に連絡をし、無断欠席しないこと。 ・ゼミでは活発な議論ができることを望みます。ただし、どんな発言に対しても相手を誹謗・中傷するようなことはしないことを守ってください。
その他	<p>ゼミについて興味がある方は、研究室(3号館4階)を訪ねてください。その際、事前にメール(chikama@k-kentan.ac.jp)でアポを取っていただくと確実です。もちろん、メールでの質問もかまいません。</p>

2022年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

野村ゼミ

基本テーマ	<p>ハンセン病を通じて人権について考える</p> <p>ハンセン病は感染力が弱いのに強い、遺伝しないのにすると誤解されていました。このため、感染者全員が一度入ったら二度と出られない療養所に強制収容されたり、中絶と不妊手術を強制されるなど深刻な人権侵害を受けました。この状況は1907年から1996年まで約100年にわたって続きました。1960年以降は特効薬プロミンの普及により全員が完治し感染の恐れが全くなりましたが、それでも30年以上にわたって強制収容と人権侵害が続きました。</p> <p>こうした療養所は鹿児島にもあり、鹿屋に星塚敬愛園、奄美に和光園があります。このうち星塚敬愛園は入所者千人以上の日本最大の療養所であり数多くの悲劇の舞台となりました。なぜ、感染の恐れが全くない健常者が強制収容され人権侵害が続いたのでしょうか。このゼミでは、それを考えることを通じて人権問題の本質に迫りたい。</p>
ゼミ運営方法	<p>国内13か所の療養所を訪問し世界遺産登録活動に参加、同様の「負の遺産」であるアウシュビッツ強制収容所などを訪問する</p> <p>野村ゼミはコロナ規制が始まる前まで、国内・海外の現地に実際に行き学ぶことを基本に活動してきました。残念ながら、この2年間はそれができませんでしたが、全世界的なワクチン接種の加速により、欧米では旅行者の受け入れが再開され、日本でも規制緩和が進んでいます。</p> <p>こうした規制緩和の動きが進むことを前提に、今回募集するゼミでは、まず国内13か所の療養所のうち主なもの(鹿屋の星塚敬愛園、奄美の和光園、東京の多摩全生園、岡山の長島愛生園、沖縄の愛楽園など)を訪問します。さらに、春休みには同様の「負の遺産」であるアウシュビッツ強制収容所などを訪問します。</p> <p>また、長島愛生園を中心に推進されている世界遺産登録活動に参加します。具体的にどんな運営が行われるかは、基礎ゼミが野村ゼミだった人に聞いてもらうのが一番ですが、研究室に来てもらえばいろいろお話しします。</p> <p>なお、コロナ規制の緩和が進まない場合は、学内・県内で実施できる範囲で同様の活動を実施します。また、海外訪問への参加は義務ではなく、参加しなくても単位は認定します。</p>
就職指導の方針	<p>私は県短に30年以上勤めているため、ゼミの卒業生が400人ほどおり、ほとんどの地元企業に卒業生がいます。これらの卒業生にゼミに来てもらい相談に乗ってもらいながら皆さんの就活を進めます。海外留学、海外就職した卒業生、編入した卒業生についても同様です。</p>
卒論の要件	<p>自分で見て、聞いたことをベースに、統計、文献を引用してまとめてもらいます。対象、テーマは皆さんに選んでもらいます。ハンセン病と関係あるテーマが望ましいですが、無関係でもOKです。</p>
学生への要望	<p>コロナが明ければ、国内旅行はLCC、ドミトリ利用で想像以上に格安で行けます。海外も意外に近く、安く、楽しいです。ヨーロッパ2か国計1週間で8万円くらい(航空券往復+ホテルの合計)。コロナが明けたら、旅行を楽しんで見ようという気持ちを持ってもらえたらと思います。</p>
その他	<p>野村ゼミに応募を考えている人は、応募する前に2号館3階の野村研究室に来てください。授業時間以外は毎日午前8時半から18時頃まで研究室にいますのでアポは不要ですが、事前に連絡しておいてもらえると確実です。携帯090-8298-0909、メールspjdc453@gmail.com</p>

疋田ゼミ

基本テーマ	<p>【基本テーマ】どんな働き方をする？ 働き方が多様化している現代社会。それぞれの働き方のメリットとデメリットはどんなところにあるかを考えます。</p>
ゼミ運営方法	<p>「演習1」では、企業が提供する様々な「働き方」について議論します。まずは、同じ記事を読んでも、どこに注目するかは読む人にとって違うことを楽しんでください。その上で、その「働き方」のメリットとデメリットについては、企業側と労働者側で評価がどう違うか、その「働き方」が採用されるようになった背景について議論します。</p> <p>①毎週、新聞・雑誌の記事から、その「働き方」のメリットとデメリット 参考:日本経済新聞、週刊ダイヤモンド、賃金と社会保障等、資料室の雑誌 ②法的な視点から、その「働き方」「働き方」はどう評価されているかを知る 参考:企業法務を専門とする弁護士事務所のHPや転職サイト・労働組合のHP</p> <p>「演習2」では、演習1での学習状況を見極めながら、文献を2冊選び、輪読します。①文献については、「演習1」で興味をもった働き方をテーマにしたものをみんなで選んで決めます。決める過程で、文献調査の方法などについて学びます。②報告担当を決め、報告者は自分の担当箇所をレジュメ(またはパワーポイント)を使って自分が考えた論点を中心に報告する。他のゼミ生は報告に対して質問や意見を述べることで議論を充実させる。</p> <p>「卒業研究」では、各自のテーマに基づき、卒業論文を完成させることがメインです。それぞれの研究内容や進捗状況などを随時報告してもらいます。</p>
就職指導の方針	<p>編入試験も含め、自己PRや志望動機、面接へのアドバイス、履歴書添削などのサポートは最大限行いますが、ゼミの運営に主体的に関わっていくことが、必要な素養を身に付ける最大の就活対策になると思っています。</p>
卒論の要件	<p>基本的にテーマは自由。演習2の終わりまでにテーマを見つけてください。コピーでなく、自分で調べたこと、自分で考えたことを、自分の言葉でわかりやすく書いてください。図表などを使うと15,000字程度の卒論は結構書けるといいます。</p>
学生への要望	<p>自分とは違う考え方に会いたいと思っている人、自分の頭で納得いくまで考え、自分の言葉で表現したいという人、ゼミで何かやってみたくて構想を持っている人大歓迎です。協力してください。ゼミの時はゼミのテーマに真剣に取り組む、遊ぶ時は思いっきり楽しむというメリハリをつけられる人。あるいはそうありたいと思っている人を希望します。</p>
その他	<p>疋田ゼミについてもう少し知りたいと思う人は研究室(3号館4階)を訪ねてください。ただし、メールで(hikita@k-kentan.ac.jp)アポをとってから。またメールでの質問も受け付けます。</p>

福田ゼミ

基本テーマ	ロシアによるウクライナ侵攻は、これまでの国際秩序に深刻な影響を与えました。国際社会で起きる様々な出来事が、鹿児島で暮らす私たちの生活にどのような影響を及ぼすのかを考えたいと思います。グローバルな視点をもって、ローカルで活動できるようになることを目指します。
ゼミ運営方法	演習1では、新聞の社説の読み比べをして、社会の様々な問題に対してどのような意見があるのかを見ていきたいと思っています。そしてその問題について議論したり、レポートを作成してもらいます。 演習2では、国際関係論に関する基本的な文献の輪読をして、順番に報告してもらいます。同時に、順番を決めて毎週新聞記事についての報告してもらいます。演習2の途中から各自の興味のあるテーマについてまとめてもらいます。 卒業研究では、各自の卒論のテーマについて報告してもらおう予定です。 ゼミの運営に関しては、参加者と相談しながら決めて行きたいと思っています。
就職指導の方針	小手先の面接技術などを習得するよりも、学生時代にしかできない体験、他の人と違った経験をすることを勧めます。
卒論の要件	「基本テーマ」に関するテーマについての卒業論文を執筆してもらいます。分量は、1万2千～1万5千字程度。
学生への要望	自分で考えて、自分で行動していこうというタイプの積極的な方を歓迎します。 遅刻や欠席などをしないなど、あたりまえのことをあたりまえに行える学生を希望します。
その他	何か質問があれば、遠慮なくメールでfukuda@k-kentan.ac.jpまで問い合わせてください。直接研究室に来てもらっても構いませんが、事前にメールで連絡をもらえると確実です。

船津ゼミ

基本テーマ	コミュニケーション能力、議論する力、マクロ経済学を主とした経済学に関する体系的知識、経済・社会に対する洞察力、プレゼン能力の習得・向上を目指します。これらは、一般企業、公務員等の就職活動や進学に有意義であるだけでなく、卒業後、社会人として様々な活動をする上での地力となると考えます。
ゼミ運営方法	ゼミの具体的な運営方法は初回にゼミ生全員で話し合っ決めてたいと思います。そして、1年半単位ではなく、半期ごとに成果が実感できるゼミにしたいと思っています。現時点で私からは、毎回のゼミの最初の15分程度でグーグルの研修プログラムを参考にしたコミュニケーション能力向上のためのエクササイズを行うこと(面接対策にも有用と考えます)、その後の1時間強は、主として伊藤元重『マクロ経済学 第2版』日本評論社をテキストにマクロ経済学に関して学びつつ、学んだ内容と関連したニュース等について議論することを提案する予定です。マクロ経済学は公務員志望者や進学希望者だけでなく、一般企業での就職を希望する学生にも有意義ですが、商経学科には「経済学」の後、マクロ経済学についてさらに学べる科目が開設されていないことがこの提案の理由の1つです。また、定期的にディベートか新聞や海外通信社の記事等を元にした議論も行えればと思っています。
就職指導の方針	ゼミ生の要望に沿って指導します。こちらから、あれをしなさい、これをしなさいといった指示を出すことはありません。具体的には、履歴書を書く時に相談に乗ったり、添削したり、面接の練習相手をしてアドバイスしたり、進学志望のゼミ生には、勉強方法についてアドバイスしたり、勉強会の形で分からないこと等の解説をしたり、質問に答えたりといったことをしてきました。前回の二部ゼミで2年次に地方公務員に採用されたゼミ生(勤務しながら学び、2022年3月無事卒業)が他のゼミ生に伝えてくれた面接や履歴書対策のアドバイスや資料も、ゼミ生に活用してもらおうと思っています。
卒論の要件	分量としては、400字×20枚以上が一応の目安です。テーマは、社会に関するものであれば基本的に自由です。過去の卒論のテーマには、鹿児島県財政、鹿児島県内の市町村合併(薩摩川内市、南九州市等)、地域経済の活性化(出水市の企業誘致、「さんふらわあ」の影響、天文館の活性化等)、雇用・労働(アルバイト雇用、派遣労働、高齢者雇用、外国人労働者、女性の就業率、奄美市の雇用、中小企業のジョブ型雇用導入)、観光(鹿児島県と熊本県や福岡県との比較、霧島等のジオパークの比較等)、地域防災計画(鹿児島市と宮崎市の比較)、テレビCMと企業の売上の関係性、企業の経営分析(路線バス、ブランド戦略、コンビニ間の比較、ユニクロの分析、楽天とアマゾンの比較、東宝と東映の比較)、スポーツ(日本のプロ野球球団、野球の独立リーグ、日本女子サッカーの分析)、NPOと行政の協働、ロンドンオリンピックから見る東京オリンピック、太陽光発電の現状と課題等がありました。 ゼミ全体やゼミの中での数人のグループで共通のテーマに取り組むことも考えられます(過去には2人で協力してアンケートを取って保育士・幼稚園教諭の人材確保と処遇改善に関する連名の卒論を書いた先輩もいます)。
学生への要望	現在の知識の量、勉強や読書の得意、不得意といったことは一切問いません。また、ゼミの議論では積極的に発言してもらいたいと思いますが、良いこと、感心してもらえるようなことを言おうとする必要は全くありません。しゃべることが得意でなくても構いませんから、自分が感じたこと、考えたことを素直に、出来るだけ分かりやすく伝えようとしてもらえれば十分ですし、そうしやすいうちにゼミを運営するつもりです。毎回のゼミでのそうした積み重ねが、コミュニケーション能力や議論する力、プレゼン能力の向上に必ずつながっていくはずですよ。
その他	僕に実際に会ったり、話してゼミ選択の判断材料にしたいという方は遠慮なくお願いします。他の仕事等と重なる可能性もありますので、前日の午後9時までにメールでアポイントメントをとってもらおうのが確実です。数人一緒に大丈夫ですので、気楽に声をかけてください。来室時には軽くノックして、「〇〇(自分の名前)です」と呼びかけてもらえると助かります。 なお、ゼミの希望者が定員を超えた場合は、2年のゼミ生に、理由や評価基準を話し合ってもらった上で、名前を伏せた志望書を読んでもらい、その評価を参考に判断する予定です。

山口ゼミ

基本テーマ	<p>〈社会問題を理論的に考察し、解決策を探る。〉</p> <p>このゼミでは、主に文献輪読によって社会問題をとらえる理論を学んでいき、卒業論文執筆を通じて問題意識の整理の仕方、資料の集め方、論理的な考え方、解決策としての自分自身の主張のつくり方などを指導していきます。</p> <p>少子化、高齢化、財政問題、地方衰退、格差と貧困、働きすぎ、新技術の登場、気候変動、差別、国際紛争その他、卒論で取り上げる題材はゼミ生個人が自由に選びます(ただし経済的視点から分析できるものが望ましい)。</p>
ゼミ運営方法	<p>演習1では、基本的に毎週本や論文を読んでいます。「社会」とは何かや私たち一人ひとりを指す「個人」と「社会」のつながりから考えていきます。その後、ゼミ参加者の関心(「なぜ就職しなければならないか」「なぜ失業するのか」「なぜ働くのはしんどいか」「なぜ所得格差が広がるのか」「なぜ金持ちは金持ちでいられるか」「なぜバブルが発生するのか」「なぜ少子高齢化が改善しないのか」「なぜ政府は社会保障を充実させないのか」「なぜ移民受け入れに消極的なのか」等々)に応じて理論的な検討を行います。必要に応じて、研究の方法論(研究とは何か、どのように進めるか)といった基礎についても学んでいきます(春休み期間も含む)。</p> <p>演習2では、引き続き理論に関する文献輪読を行い、並行して各自のテーマとしたい問題に基づいてゼミ参加者による研究報告を行います。</p> <p>卒業研究では、各自がテーマを決めて研究を進め、研究報告を中心としたゼミ運営を行いません。</p> <p>1年生の春休みはレポート課題を出します(演習2の第1回目において各自報告)。</p> <p>長期休暇中は各自の研究・学習に必要な本を自習してもらいます。また、ゼミ生の希望があれば国内外への調査旅行や合宿なども実施します(ただし新型コロナウイルスなどの状況次第)。</p> <p>その他、希望があれば企業見学なども随時企画します。ゼミ懇親会などの親睦企画も随時実施します(同上)。</p>
就職指導の方針	<p>就職・進学いずれにしても、基本は自分自身で進めてもらいます。</p> <p>その中でわからないことがあれば相談に乗ります。可能なかぎりが必要な支援も行いますので、相談は遠慮せずに行ってください。</p> <p>支援の中身としては、編入試験の勉強会のチューター、志望動機の添削や自己分析の手伝いなどを過去行ってきました。</p>
卒論の要件	<p>テーマは指導の中で相談して決めていきます。字数はおおよそ12000字以上とします(図表込み)。</p>
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・無断欠席をしないようにしてください。 ・しっかり勉強に取り組むことを基本としていますが、とりわけ就活の取り組みを含め、個人個人の状況には配慮します。負担が大きいなどの悩みがあれば遠慮なく相談してください。 ・ゼミの課外活動(企画、調査旅行、合宿など)については、実施される場合基本的に参加を推奨しますが、参加不参加の判断は任意であり成績には影響しません。また、金銭面その他不安がある場合は相談してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活から、いろいろな物事に対する好奇心を持つことで、知の可能性はぐっと広がります。 ・個性を大切に。 ・自分の心身の健康を大切に。
その他	<p>面談の希望があればメール(y-yamaguchi@k-kentan.ac.jp)で連絡してください。</p> <p>面談は研究室(3号館2階)で行います。</p>

山本ゼミ

基本テーマ	<p>今年のゼミの研究テーマは、「観光行政」、「文化芸術行政」、「環境行政」です。最初に「観光行政」について取り組みます。</p> <p>「観光客にとって、魅力的な都市は何か」という視点から、「都市ブランドの確立」、「ホスピタリティの育成」等の観光振興のための施策について検討していきます。次に「文化芸術行政」について考察します。近年、住民参加型の芸術祭、アートプロジェクトが増えています。これらの成功例を参考にして、鹿児島市がパリ、フィレンツェのような文化都市になるためにはいかなる施策が必要かを考えます。最後に「環境行政」について学びます。最初に環境法に関する基本的事項を学んだ上で、フィールド・ワークを通じて地球の自然環境を未来に引き継ぐために、私たちがすべきことを法的視点から考察していくことにします。</p>
ゼミ運営方法	<p>演習Ⅰ：ゼミの基本テーマに関連する文献を使用し、観光行政、文化芸術行政、環境法の基礎知識を身につけます。担当者に順番に報告してもらい、全員で議論をし、理解を深めます。</p> <p>演習Ⅱ：各ゼミ生が卒業論文のテーマを決めて、調査を開始します。</p> <p>卒業研究：卒業論文を作成します。</p> <p>フィールドワークを実施します。実際に鹿児島県の観光地に行き、観光客にアンケートをお願いしたり、インタビューをすることで、より魅力的な観光地になるためのヒントを探します。毎年、山本ゼミでは南大隅町の「雄川の滝」に行っています。20分ほど森の中を歩いて、素晴らしい感動を体験します。また、鹿児島市役所、鹿児島県庁などを訪問し、文化芸術、環境保護担当職員の方にインタビューをしたり、市立美術館、環境未来館に行き、文化芸術の振興、環境問題を学ぶことで、文化芸術行政、環境行政のあり方を考えます。ゼミ旅行は、コロナが収束することが条件ですが、海外(費用は20万円程度)あるいは国内(費用は6万円程度)に行く予定で、世界や日本の歴史文化を学びます。これらの課外活動への参加は任意です。参加する意欲のある学生を歓迎します。課外活動は、ゼミの成績には一切影響しません。今年のゼミ運営の合言葉は、「見る、聞く、出会う」、「卒論作成のために徹底的に歩いて汗をかく」です!</p>
就職指導の方針	<p>山本ゼミのOGに就活体験記を話してもらうことを予定しています。</p>
卒論の要件	<p>卒論のテーマは自由ですが、1万5千字以上を条件とします。</p>
学生への要望	<p>忙しいゼミが好きで、行事やゼミ旅行に積極的に参加できる学生が山本ゼミに向いています。コロナの状況が改善した場合のみ、山本ゼミでは世界の料理を食べる食事会をします。*食事会への参加も任意です。ゼミの成績には一切影響しません。</p>
その他	<p>山本ゼミを希望する学生は、できるだけ研究室を訪問してください。研究室訪問の際には、事前にメール(yamamoto@k-kentan.ac.jp)を送るようにしてください。</p>